

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成7年12月25日



上田城櫓門

真田昌幸公の築城による上田城の東虎口に建設されていた櫓門が平成6年の春復元され、その壮大な姿が現代によみがえりました。

(ふる里 真田町点描より)
写真は横沢清人氏提供

NO.

8

「東京真田町の会」の一層の発展を願って

会長 小林孝雄



会報「日本ダボス」第八号をお届けいたします。「日本ダボス」も本号で第八号となりました。

誇れる郷土「真田町」の構築



戦後五十年、日本にとって大事な節目の年でありました。戦後の日本は、世界に例のない復興、そして五十年間戦争のない平和な物質的に恵まれた国、経済大国とまで言われる国になりました。

今、国際化、情報化そして超高齢化社会等々のスピード化時代を迎え、総て新たな体験と試練を強いられつつある時代でもあります。時代はハードからソフト時代へ、更にヒューマンウェア時代へと大変革の時でもあり

会員皆様の交流、親睦の場として、いま迄お役に立ってきたことと信じてますが、これからの一層内容の充実につとめ、皆様から喜ばれる会報となるよう努めて参りたいと存じます。

「東京真田町の会」第八回総会は、去る九月九日、「アルカディア市ヶ谷」において、真田町から若林町長、堀内議会議長ほか多数の皆さんのご参席を得て、盛会裡に開催することができました。

ます。今日、日本のこれまでの内なる政治、経済、教育等々の歪み是正、新たな時代への議論はされているものの、政治や行政の対応が国民にとって理解し難い現実が多すぎると思われます。

本年は、一月早々阪神淡路大震災、特定宗教団体による常識でどのように判断してよいか、この上ない激憤を感じるサリン事件、経済大国と言いつながら構造的経済不況、国家財政もアメリカと同様の赤字累積に歯止めがでない国政、そして、日本列島の頻発地震、気象現象、外国においても地震大災害、自然気象による悲惨な災害等々極めて異常な一年でありました。こうした一年でありましたが、真田町は格別な災害もなく、震

した。今回は特に初参加の方が多く、会の発展のために大変喜ばしいことと思いました。「朋有り遠方より来たる。また樂しからずや」との実感を泌々と味わうことができました。私共の世界は、自然と人との織り成す交流の場であり、積極的に向かい自然と親しみ、人と睦み、共に楽しむことにより、豊かなところが形成されるものと思えます。その意味からも、「東京真田

真田町長 若林康朗

災のあった神戸・淡路へ、町の体育祭、真田まつりを遠慮し、町民や団体、企業の皆さんの協力により一千万円に近い義援金を申し上げました。

また、町の政策事業として、町振興公社の中に営農推進部を設け将来の町農業の振興策、公共下水道処理場（五、二〇〇人）の着工、新たに統合する真田保育所建設（平成八年三月完成）、消防庁舎新築（本年十一月完成）、菅平ラグビーランド（仮称）約十九畝の着工、ふれあい環境整備委員会（全町三十六自治会の）が、町の美化花いっぱい活動三年目にして、全国花いっぱい地方審査会で、長野県の最優秀賞に、95長野県芸術祭県民コンサートが、町民の自主的な実行委員会によって、諏訪交響楽

町の会」が、会員皆様の共感の場として、もつと巾広く育っていくよう心から念願する次第です。

さて、「東京真田町の会」は、間もなく設立十周年を迎えようとしております。お蔭様で会の組織も財務内容も、真田町ご当局のご支援と会員皆様のご協力により、総会議事の会計報告で明らかかなように、発足後数年の頃と比べ格段に充実強化されました。本会の事業活動は、事業報告に記述のとおりであります。が、必ずしも会員皆様にご満足

団のオーケストラと共に、身体障害、老若男女を問わず百五十名の皆さんの手話大合唱を成功、営農推進部で栽培したそばの第六次産業化の「真田の里、新そばまつり」（東京真田町の会の清水清晴副会長さんと三井芳郎會計幹事さんに御出席賜りました。）、ホテル経営、農業経営の次代のノウハウの勉強のため、特命全権真田大使として、二名の課長補佐を山形県と栃木県へ、一年間他市町村の行政勉強も併せて派遣する等々、二十一世紀への町の礎づくりの新しい事業の展開を試みました。

郷土に思いを寄せる東京の真田町の会の皆様はじめ、真田町出身の皆様が、「わが郷土は」と誇りと自信の持てる町づくり、そして、真田町に生活する町民の皆さんが、自ら行政に参画行動し、一丸となつての熱意によ

頂けるほどのものではありません。本会が活発に事業活動を行っていくための基本は、組織と財務内容の二本の柱を強固にすることでありました。八年目のいま、漸くその展望が開けて参りました。今後は、役員各位の一層のご奉仕を願い、また会員皆様から数多くのご提言を頂き、「東京真田町の会」が名実共にふるさと真田町と相共に発展するよう、事業活動の幅広い展開を目指して参りたいと考えております。何卒引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

る、個性豊かな、自信に満ちた後世に悔いを残さない基礎を築き上げたいと思ひます。

私は、特に「であい」と「ふれあい」を大切にする町づくり、「人づくり」を中心に、地方主権時代にふさわしい政策の企画力、決断力、実行力が強く求められている今日の地方自治行政の中で、政策実行のチャンスメーカーとしての役割を自覚し、議会、職員共々町民に信頼される町づくり、環境づくりに尚一層の努力を傾注して参りたい所存であります。

どうぞ、東京真田町の会の皆様にも、それぞれのお立場で、御指導、御支援を賜り、皆様と共に誇れる郷土「真田町」にしたいと存じます。皆様の愈々の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げます。

東京真田町の会の発展を祈ります

真田町議会 議長 堀内 敬

第八号会報発刊に当たりまして真田町議会を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げます。

本年の総会には私達真田町議員全員お招きをいただきましたこと誠にありがとうございます。厚くお礼を申し上げます。

小林会長さん始め歴代の役員の方々のご努力で年々会が発展されておりますことに敬意を表する次第でございます。会員の皆さんには上京以来、お壮健で政治、経済、或いは文化その他種々の面で活躍されておりますことは、私共郷里にありまして心強く感じており、これからも益々それぞれの分野で

活躍されますことをご期待申し上げます。

昨年十一月真田町発足以来第十期目の議員として私達十八名が町民の代表に選ばれました。一年余り経過しましたが、各々議員活動を通じて私達の町、又皆さんのふる里であります町の発展と町民の福祉向上に全力を傾注しております。なにとぞ東京真田町の会員の皆さんにも今後共よろしくご指導、ご協力の程をお願いいたします次第であります。

戦後五十一年の節目の年であります。時代と共に日本中が変わり平成八年度には上信越自動車道、九年度には北陸新幹線が開



堀内 敬 議長

通となり、又一段と町の様子が変わりそれらに伴った対応が誤りのないよう求められております。町でも下水道の整備、或いは高齢化時代に向けての福祉の町づくりを積極的に展開している所であります。然し国民の価値感、物の豊かさから心の豊かさへと、又、生活の利便さまで大切ですが自然とのふれあいを求める傾向に変化し、豊かな自然環境への関心が高まって来ております。幸いにも私達真田町は自然は豊かであり、ここに住んでいる者にとっては郷土を守り、育てる責務があるものと自覚をしております。そして新しい時代に向けた二十一世紀のふる里づくりをしなければと考えております。それにはどうしても東京の会員の皆さんの新鮮な考え方、優れた知識と一緒にふる里づくりに参画していただければ一歩前進した真田町が生まれるものと信じます。又町に東京の会の拠点を作り、町の人々との交流の場所が必要かとも考えます。気楽にふる里に帰り、自然環境にめぐまれた地で過ごせる日々は楽しいと存じます。終わりに東京真田町の会が更に発展され、そして会員皆々の方の益々のご健勝とご多幸をご祈念いたしましてご挨拶いたします。

ふるさとへの思い

芽生え（就学まで）

塩崎 武男（大畑出身）



あの日あの時私は父の傍の食膳に着いた。途端「オーット」一声と共に父の腕中にある庭先の菜菔の木の幹に掴まされて居た。これこそあの正十二年九月一日の関東大震災の日であった。聴て父は指示して薄暗く広い三和土の玄関に入る後ろ姿を見た。以後は後ろ姿を戻ったか記憶にない。その間三分位であった。本原村の一隅に生を享けて最初で最古の記憶である。時に三歳八ヶ月の日であった。以後は空白で再び記憶が甦ったのは一年後。今年初夏に帰省、日も長く好季節、懐かしい車の通らぬ小径まで散策、思い出は走馬灯の如く去来する。この川縁は電鉄工事に従事する三国人家族の洗濯場でもあった。日本人は赤ちゃんは背におんぶであるが、彼等はお尻の上に袋状？にした布で結んで石の上に洗濯物を掛け重ねを繰り返して玩具の野球バット位の棒でビシヤビシヤと水飛沫を飛ばして力強

い叩き洗い、終わると重くなった洗濯物を大きな盥に収め頭に載せてそれも手を添えず約百メートルの宿舎まで悠然と往復する姿に驚異の目で見たものだった。場所かわりて、ここは、電鉄敷設工事現場、祖母に伴はれて日課の様に表れた処だ。駅舎ホームの設置で五十m位（現在地点）南側に移動を余儀された道路。その工事現場は、シャベル、トロッキ、畚で専ら人力であの膨大な土砂を運搬したものだ。労務者は朝鮮系の人が多く含まれていた。その工事には延人員は、延日数は学齢前の我々には知るすべもなかった。この踏切だった場所にも信号機が設置された。当時結婚後里帰りの叔母は新道（県道）を走る車を見て「アレーあの馬車、馬がいなくても走ってる」と驚嘆したあの顔が目には浮かぶ。昭和初期かそれ以前の事であった。昔は静寂な純農村も電鉄の廃止、町制となり急速に発展しベッタタウンと化し、専業農家も減少傾向の様子。田圃を渡る風にも活力が伝わり町全体、毎日が動いての感触を得て心強くふるさとを後にした。

「ふるさと」昔と今

武捨久男（中組出身）



私は、傍陽中組の出身で、東京の学校へ行くため、昭和十四年田舎を離れ、終戦の昭和二十年末実家へ帰って来て、三年半ほど田舎暮らしをしました。昭和二十四年半ば、また上京して今日に至ったもので、小学校、中学校時代の思い出だけが強く心に残り、「ふるさと」と言えば、この幼年、少年時代の思い出だけが心にしみ、その思いから遠く「ふるさと」をみて来ました。

年に二、三回は実家に帰りますが、帰ればむさぼるように、子供時代遊んだ裏山とか、木造の小学校校舎の回りなどを歩き廻り、昔の思い出を確かめ、心の安らぎを抱きながら、帰京するのでした。

その思い出の「ふるさと」に

もいわゆる近代化というものが押し寄せて来ているようです。

この十月初旬、弟の車で、松代、小布施、長野等へドライブしました。昔松代へ抜けるには、地藏峠を越えなければなりません。地藏峠は私達小学生時代は遠足の目的地でした。峠へ行くには、デコボコした山道を、清冽な川の流れと、両側からせまる山を見ながら、ゆっくり時間をかけて登るところでした。ところが今は、立派な舗装道路で、車であつという間に峠を登り、松代町を眼下に見ることができるようになりました。

小布施から長野市への途中には、すごいハイウェイが建設中で、昔、古戦場であつたような場所に高層ホテルが建っていました。

松茸がとれ、炭焼きの盛んな山奥の村傍陽のイメージが急速に変わって行くような予感がありました。

ところが、そのドライブのあと、ある怖い話を聞きました。中組の一部落に堤というところがあり、そこに住んでいる小学校の同級生（M君）が少し入った山の中（昔虫取りに行ったり、

桑畑の草かきに行ったようなところ）で、子連れの熊に襲われたというのです。急にしくわしたわけですが、いきなり熊はM君を襲い、負いかぶさってM君の頭に噛みついたというのです。

M君は昔から磊落な性格でしたが、熊に押し倒され、頭に噛みつかれながら、熊の下から熊の舌を引きちぎってやろうとしたそうです。その話を聞いて、その剛毅さに唯々びつくりしました。幸いにそこが坂で、熊の頭は坂下に向いていたため、あばれた拍子に熊は前にひっくり返りそのまま逃走したそうです。

M君の頭は血だらけになり、七八針も縫ったそうですが、命に別条は無かったのは不幸中の幸いでした。

私の小学校時代（昭和四、五年頃）中組のハンターが入軽井沢の山中で大熊を至近距離で射ったというのが英雄話のように広がり、入軽井沢まで見に行った思い出がありますが、それは遠い昔のことと、最近、村中で熊に襲われたという話と、近代化の見聞とが妙にアンバランスに思われ、複雑な気持ちで改装中の上田駅で電車に乗りました。



上田市の真田まつりで馬上の人 若林町長

真田郷（歌）舞踊保存会の紹介



真田郷保存会会長

小川 博

我が郷土真田町をこよなく愛しております。真田町はその名のとおり真田氏発祥の郷として歴史の薫り高き町であり、その英雄を輩出した土壌は今もなお美しい自然と文化に営々と生き続いております。この真田町を愛する心から町を代表する歴史や文化を詠みこんだ名歌「真田郷」の（歌）と舞踊は生まれました。傍陽にお住まいの山宮久義氏の作詞であります。作曲は緑川敦夫先生、舞踊の振り付けは上田市にお住まいの近藤敏子先生にお願いをして格調高い真田氏発祥の歌となりました。特に地域づくりに、又村おしが叫ばれて久しい現在ですが、「真田郷」の（歌）と舞踊は地域から生まれた住民による伝統文化として永く郷土の誇りとして受け継いで行きたいと念じ「真田郷」の（歌）舞踊の保存会を設立致しました。保存会設立につきましても特に若林町長、教育委員会、公民館、更に顧問の皆様方に温かいご理解と激励を頂きまして、平成七年十月八日真田町文化会館大ホールに於いて盛大に保存会結成大会が実現出来た訳であります。当日は真田郷保存会員真田町舞踊連合会、各歌謡教室の皆さんにご出演を賜わり、歌と踊りの晴れの舞台に華を添えて頂き、客席は満員の入場でありました。この姿を見ても郷土の文化の振興に大きく貢献出来ます様にと保存会は会員一同燃えております。十月八日の結成大会は保存会のスタートラインの記念すべき日であります。真田郷の歌と舞踊は町内各種のイベントの際に御披露申し上げ、生涯学習の一環と位置付けて後世に継承し

て参る所存であります。それにつきましても今後会員の増員を進めて、更に大きな輪となります様に引き続き温かい御支援と御指導御協力をお願い申し上げる次第であります。

当日は東京真田町の会を代表して遠路御出席を頂きました三井芳郎様、深町共榮様、心から敬意と感謝を申し上げますが、保存会の紹介とさせて頂きました。



正面踊り・真田町舞踊連合会役員の皆様



真田郷・正面踊りのフィナーレ

山また山と出会わず 人また人と出会う

関谷道義（戸沢）



平成七年七月東京在住の戦友会より、五月私が出版した「十五年戦争軍靴の歩み」の出版祝を準備したので新宿集合の有難いご通知を頂く。終戦後中隊の先輩で連隊会の世話人でもある清水さんより九月九日の午後予定を空けておいてくれ、理由は関谷の本籍である真田町と東京真田町の会との交流、親睦を図る相互の発展を期する会の総会である。その時紹介する人が居るので総会の中間以後の時間帯に来て欲しいとの言葉を頂いた。

少年の頃親戚訪問菅平スキーツアーの記憶や同期の戦友が五名程いる事、墓参りと信綱寺には出向いていたが何にしろ遠い昔の事で六〇〇名を超える会員の皆様や真田町の方々に、ご面識も無くどうなる事が疑心暗鬼と緊張の極限でアルカディア市ヶ谷に向かった。受付も開会半ば以降では机だけで人影もなく、廊下の椅子で待機した。

断っている関谷家の家系図を完成させたいと思っている。私の家も長男、三男は戦死、私は四男であるが次男が戸沢の跡を次いでいるとお話をお聞きする。清水さん、関谷さんの紹介で議員の田中尚武さん、真田町の会の田中恒夫さん、清水さんの橋渡しで役場に寄贈した本の御取計らいを頂いた企画課長の荒井さん、他沢山の方々が戸沢出身だつて！と声をかけて頂いたり席隣りのご婦人お二人方よりも御酌をして頂く等初対面でも紋切型の挨拶ではなく、身内の方とお話している様な安心感や親しみが有り、嬉しさが込み上げて来る。他のテーブルに目をやれば、肩をたたき合い、握手を交わし、笑顔でお世辞も無く談論風発、和気藹々の立ち舞いの美しい姿である。それは常に心の中のご郷と祖先崇拜の念が源流となつている証しと思われ、絆の尊さを教えられた。私もその絆を継ぐ者であり、日残りで昏るに遠しの立場の年輩であるが皆様を手本として何かを模索して頑張らねばと誓を新たにした。最後に全員輪になり、手を繋ぎ合唱するとの事、初めてで

何の歌かと心配したが、これが兎追いしかの山、小鮒釣りしかの川の大合唱であり、御見事な閉会セレモニーであった。散会后、飛入りの私にも真田町農産物の御土産を頂き感激の至りであった。

帰宅後昭和四十年父が死去してから故郷の風に触れた事のな私に本日の出合いは懐かしさが一杯で昔を回想してみた。真田町の本通り上り坂左側中央の大塚商店、お父さんは時々上田の家に訪ねて来た事、その息子さんは私と同年兵で同じ連隊であった事、その前の家が親戚に当たる荒井家で、子供の頃良く遊びに行き、食事は各人一人用の箱膳で食べた事、一日中叔母さんの機（はた）織りの音、突然各区の半鐘が鳴り出し何事と思えば「熊」出たぞという人々の伝達の声、冬には四十糎角の一人用「ソリ」で猛スピードの坂下り「ブレイキ」は炭取り出し用の小型熊手、初年兵と一緒に入隊してベトナムの兵舎では隣り寝台、戦友が双方の両親が知り合いの仲であった真田出身の亡き坂口浅次氏であった事等、走馬灯の如く去来する。又、会

場で一つ一つ方言もお聞きしたので思い出して見た。等々又六十年前即ち昭和十年十月父栄太郎が幼い頃死別した父徳松名にて戸沢神社に狍犬一対奉納の際、戸沢の方々と思われる二十一名が撮られている記念写真を発見、当時父は四十五歳で生きておれば百五歳となりますが、現存の方子孫の方で必要なら原版がありますので、差し上げたいと思っております。本日は清水さん、関谷義久さん始め郷土、真田町の会の皆様大変有難うご座居ました。お話を祖先を偲び、故郷の懐かしさに浸る事が出来、最高の一日でありました。皆様の益々の御発展を御祈りして擱筆させて頂きます。



戸沢神社前・筆者の父

うたの慕情

長屋京子 (菅平出身・旧姓 宮沢)

『恋は悲しと…』

歌うマリモの…

……

戦後五十年を、うんぬんしている昨今、沢山のことが風化し、埋もれていく長い年月ですが、うたはその時、その年代を、一瞬によりみがえらせてくれる力強い魔力だとつくづく感じます。

今年の真田町総会での、安藤まり子さんによるうたも、しっかりと青春の甘ずっぱい想いを美



長屋京子さんと安藤まり子さん

しい声に乗せて、いざなってくれました。ホロ酔気分の宴席のざわめく現実の中にあっても、メロディーはなつかしく体にしみ入りました。

さくら貝のうたも、大声をあげて友達と、はたまた一人でしみとたたったものでした。

又、「長」菅平の円卓に縋沢議員さんがいらして、私は「どなたの家系の方？」と聞くほど遠い人です。「縋沢弥助の家系です」

分教場の入口の前の家のこと、しっかり覚えていきます。菅平の話で、ひとしきり…

五十年前の菅平の娯楽、否、カルチャーといえば学校の教室を二教室開放放しての活動写真！どんなにたのしく、ドキドキして見入ったことでしょう。

そしてもう一つ、青年団による演芸大会（正式な名前はさだかではありませんが）その時の舞台（堀っ立小屋）での演技のわずかず、その一つに、泣くな妹よ、妹よ泣くな…このメロディーを耳にする度に弥八さん達のさつそうと、かつこよく、涙なしではみれない演技する姿を、ふるさとの昔のページになつかしく残っています。

うたは何年経っても最初に耳にした思い出をずっと消さないでくれると、安藤さんのうたを聞きながら、あらためて感じ入ったことでした。

「君恋うる胸のさざなみ…」の気持ちをもロディーのひだのあいだに時折とり出して…今年総会の感傷に浸った一コマでした。

総会とふるさと

柴田小夜子

(菅平出身・旧姓 市村)

今年も又、東京真田町の会がやってきました。毎年この会が楽しみです、今年はどうな方にお会い出来るのかなあ…と心待ちしておりました。毎年何人かの懐かしい方々にお会いし、その度に三十数年前の古里の風景が甦ります。皆、心はいつもその時のまま、そして、あんな事、

こんな事もと次々に思い返され、遠い日々が昨日の事のように思えるのです。目を輝かせ語る一時、あつという間に会の終わりの知らせ。いつまでもつぎの事と顔を見せてね」とお互いに手を握り合いしばしのお別れ…

こんな古里がある私はやっぱり幸福なんだなあ。都会の雑踏の中に生まれ育ち生活している我が子にもこんな古里を作ってあげられたらと思うのですが、時の流れは止められない。せめて「心のふるさと」を思う今日この頃です。

今年参加者が少なかったのでしょうか、来年は多くの方に声をかけて、皆さんに古里へのタイムトラベルをしていただきたいと思います。



ふるさとは近くにありて語るもの

幼き頃の
秋の夕暮

第八回総会写真と 総会報告

事務局

九月九日正午よりアルカディア市ヶ谷に於いて第八回総会と懇親会を開催しました。

真田町から若林町長、中村助役、古居収入役、荒井企画課長等十三名と堀内町議会議長他議員十八名、計三十一名と会員（本地区二十四名、長地区三十九名、傍陽地区七十八名）一四一名、総会に先だつて県歌「信濃の国」を二番まで斉唱し、小林会長の挨拶（会員の動向と真田町との交流について）つづいて若林町長、真田町の行政とスポーツリゾートのメッカ「菅平高原」をめざして、筑波大学生物実験センター西側一七、八畝の敷地に、メイニングラウンド一面、サブグラウンド四面陸上競技場を造り付帯施設として管理センター交流広場、いこいの広場などを計画し、着工しておられる事などお話になり、そして荒木副会長の来賓紹介をし、会則により小林会長が議長となり、平成七年度会務報告、会計報告、監査報告の議事を終わり引き続いて平成七年度の事業計画（案）予算（案）を出席者会員の拍手により可決、十二時四十分総会



総会会場と同級会



若林町長さんと記念撮影



関 義一さんと談笑



塩沢議員を囲んで旧知の仲



終了、十分間の休憩後、小林会長の歓迎のあいさつ、井出国会議員秘書市川さんの祝辞、堀内敬議会議長の挨拶で、総会の時間を区切ったので若林町長さんがお話されなかった、本原保育園と消防署について補足され、上田真田町の会横沢会長の乾杯で懇親会に入る。

アトラクションはコロンビア専属歌手安藤まり子さんの「マリモの歌」水面をわたる風さみし、阿寒の山の湖……「さくら貝の歌」うるわしき桜貝ひとつ……会場も熱気が溢れ安藤さんは客席を廻られ、大きな輪になって合唱、若林町長さんも各テーブルを次から次へと各会員にごあいさつ、午後三時すぎ、塩沢副会長が真田町の万才三唱するや町から中村助役さんの答礼万才を頂き再会と健康を祈念し「福」と染込んだりんご、ワサビなど沢山のお土産を真田町よりいただいて帰路につきました。



安藤まり子さん、マリモの歌を唱う



声高らかに合唱



全員で合唱



永井守寿さん、ご夫妻で総会を楽しむ

私たちの町に嫁にきませんか?

サークルファンタジア会長

下平 豊



東京真田町の会の皆様には、益々御健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る九月九日に開催されました第八回東京真田町の会の総会には、大勢の会員の皆様が御出席され総会が盛大に開催されたことを心からお喜び申し上げますとともに私のようなものまでおまねきいただき、小林会長様をはじめ役員の皆様方のご高配に感謝を申し上げます。

さて私たちサークルファンタジアは自分の結婚は自分自身の手でと意欲的に取り組んでいるサークルです。

男性の結婚難が騒がれている今日、私たち真田町の男性も例外ではありません。町内に住み

結婚について真剣に考えている男性が一人で悩んでいないで仲間と一緒に考え活動していこうと平成三年七月十五日にサークルが発足しました。月二回の定例会の中で、なぜ自分たちが結婚できないのか真剣に話し合い、率直な意見を出し合いました。その結果

○自分の積極性が足りなかった

○女性と出会うチャンスがなかった

○女性と共通の話題に乏しかった

など様々な問題点が浮かび上がり、それらの問題を解決していくために「出会いのためのイベント」を企画し開催することにしました。

サークルが手始めに取り組んだイベントは女性参加者0……募集活動を関係団体にまかせっぱなしだった結果がこれでした。これを教訓に自分たち自ら募集活動を始めました。まず、貴会

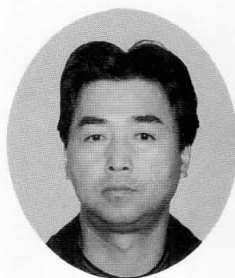
に募集活動の御協力をお願いし、貴会報へのパンフレットの折り込み、知人等への紹介を快く承諾していただきました。また、

自らの意識を高めるために新宿駅でのパンフレットの配布を貴会の役員の皆様の協力を得ておこないました。また、新聞など各メディアにも協力していただき活動してきました。この後も何回かの失敗を乗り越えながら、このサークルも五年目に入りました。夏・秋はマレットゴルフ・テニス・ふるさと手作り体験・紅葉狩りなど、冬はスキーをメインとしたイベントを各種団体

のご協力をいただきながら行っています。昨今は各地で同じようなイベントが行われており、余程魅力がないと企画倒れで終わってしましますが、このようなイベントを開催する中で何組かのカップルが誕生してきたことは会員の自信にもつながっています。これからも会員全員で創意工夫をこらした独自性のあるイベントを開催し、一人でも多くの会員がゴールインできるように活動していきたい。

終わりに、貴会のますますのご発展と会員皆様のご健康を心から念じ、なお一層のご指導を御願ひ致します。

お嫁さんを探しています。



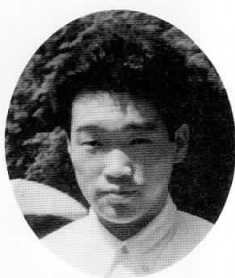
清水 勉三

長野県小県郡真田町傍陽六二〇
☎〇二六八七三二二五三〇
S 27・7・5 生 43才

趣味は休みの日にバイクに乗ることです。
冬はスキーをしています。こういう趣味ですが、いっしょに

楽しんでくれる明るい女性をさがしています。よろしくお願いします。

自己紹介



堀内 俊明

長野県小県郡真田町傍陽二八二九
☎〇二六八七三二二〇八
S 39・7・30 生 31才

この九月よりサークルファンタジアの会員となりました。よろしく願ひします。

現在、上小農業共済組合に勤務。農業関係の保険業務にたずさわっています。何事も広く、深くをモットーに毎日、いろいろなことにチャレンジしています。最近ではカラオケに凝っており、独自の発声練習法で六オクターブの音域まで声を出すことがで

きます。幅広いジャンルを歌いこなしますが、よく歌うのは、「ZARD」の曲です。スポーツはテニス、スキー、ローラースケート……etc。
読書は歴史・哲学が好きで「論語」を愛読しています。
人との出会いを大切に考えていますので、このサークルを通じて、たくさんの方と知り合うことをとても楽しみにしています。

渋沢孝輔教授に紫綬褒章

平成七年十一月十七日、明治大学教授渋沢孝輔さんは紫綬褒章を受章されました。紫綬褒章は日本政府が特に学術や芸術分野で活躍された人に贈られるもので、今回は長年に亘りフランス文学と詩の世界での研究と功績に対し贈られたものです。東京真田町の会員がこのような褒章を受章されましたことは誠に喜ばしきことです。心よりお祝いを申し上げます。

渋沢孝輔さんは昭和五年に真田町横尾の渋沢開作さん、まつさんの間に四男として生まれ、まっさんの間に大変教育熱心なご家庭に育ちました。現在も私立のつみ幼稚園を経営しておられ、長年にわたって幼児教育に貢献されましたことが認められ、今年、長野県知事より表彰され、渋沢家にとっては二重の喜びとなりました。



渋沢孝輔教授・明大研究室にて

渋沢孝輔さんは上田高校、東京外国語大学、東京大学大学院に学びフランス留学等海外での勉強研究生活も多く、現在は明治大学文学部教授として、又詩人として日本文芸家協会、日本フランス文学会等で活躍されています。

主な著書では、「廻廊」で高見順賞、「蒲原有明論」で亀井勝一郎賞、「啼鳥四季」で読売文学賞と芸術選奨文部大臣賞を受賞されました。更に「渋沢孝輔詩集」、「詩の根源を求めて」、「呪われた断片」、「極の誘い」、「思考の思考」、「秋の歌」、「薔薇・悲歌」等の詩集や評論集があります。

渋沢孝輔さんに受章のお祝いを申し上げると共にふるさと信州を真田町を愛する詩人として益々ご健康で活躍されますよう祈念いたします。(事務局)

「真田郷」歌・舞踊保存会

結成大会に出席して



真田郷作詞者
山宮久義さん

平成七年十月八日、真田町文化会館に於いて「真田郷」歌・舞踊保存会結成大会が盛大に催されました。東京真田町の会からは深町共栄理事と私が来賓として出席させていただきました。この記念すべき大会の主催は「真田郷」歌・舞踊保存会で後援は真田町教育委員会、真田町舞踊連合会、真田町歌謡教室の皆さんであります。結成大会式典は、小川博保存会会長の挨拶に始まり、十数名の来賓を代表して、羽田孜衆議院議員(代読)、若林康朗町長、一之瀬匡興公民館長、堀内敬町議会議長他の祝辞がありました。続いて作詞者山宮久義さんと作曲者緑川敦夫さんに感謝状が贈られ、又来賓には花束と記念品が贈呈されました。式典に続いて愈々「真田郷」の発表です。会場は主催者、後援会、来賓そして真田町を愛する町の人達で満員の盛況でありました。私達は初めて聞く「真田郷」の新曲、初めて見る「真

田郷」の舞踊はどんなにすばらしいでしょうかと大きな期待と興味をもって拝観いたしました。「真田郷」舞踊振付は上田市在住の近藤社中橋会会主近藤敏子先生です。歌手西川潤さんが歌われ、真田町舞踊連合会役員で舞踊指導者の平林和子さん、松尾玉枝さん、中沢俊子さん、清水はまさん、長崎伊登子さんの皆さんによって格調高い真田郷「正面踊り」が披露されました。又、地元の先生方の振付による真田郷(新)輪踊りの発表もありました。プログラムは進行し、数人の歌手と真田町歌謡教室、舞踊教室の皆さんによって歌と舞踊が披露されました。最後は歌謡教室指導者若林秀三さんの御指導で「真田郷」を合唱してお開きとなりました。



真田郷・新輪踊り

「真田郷」の作詞者山宮久義さんは真田町入軽井沢に在住です。八十二才の高齢ですがご健康で農業と養蜂業を営んで居られます。学識豊かな方で農業の合間に詩を作っているそうです。十年前程前に北海道を旅行され「北海慕情」を作詞されました。その頃からわが愛するふるさとの歴史と文化を尊重した詩を作りたいと心掛けていたそうです。「真田郷」の作詞に当たって

三井芳郎(大庭出身)

山宮さんは詩の中に出てくる場所に実際に何回も何回も足を運び現場にたずねて心が伝わるようにと苦心され、作曲家緑川敦夫先生のご指導の下に二年がかりで完成されたそうです。

この短い詩の中に歴史と文化があり故郷を愛する心が読まれています。このようなすばらしい歌詞を作ってくださいました山宮さんに心から敬意を表しますと共に山宮さんのご健康を心からお祈りいたします。

更に、今回の大会を主催されました保存会会長小川博さん、顧問の若林康朗町長さんをはじめ後援会の皆さんに敬意と感謝の意を表します。そして保存会のご発展と真田町の益々のご繁栄を願ひいたします。

終戦50周年の節目、思い出すまま

清水 清晴（中横道出身）



昭和十七年の春、徴兵検査の通達が傍陽村長名できたと、東京に居住していた私に実家より連絡が届いた。明治六年に発布された日本国民の三大義務の一つに兵役は男子たるものは避け

ては通れない関門であり、国民は皆そのように教育されていた。当時映画館ではニュースの前に「ぼしがりません勝つまでは」と「撃ちてしまふ」が必ず上映されていた。昭和十八年四月一日松本五十連隊に入営せよとの令達書を受け取り、勤務先に申告し、心の準備をしたが、仕事は手につかなかった。三月二十五日ころ勤務先より「願ニ依リ本職ヲ免ス」の辞令と退職金百五十円（百円は国債五円は現金）を頂いて実家に帰った。

三月三十一日午前五時ころ起

床し、親戚、友人、隣近所の人々と共に、赤飯と鯛のお頭つきの膳につき、立ち振る舞いをする頭の中は、これが今生の別れとなるのか等と思ひながら、婦人会より千人針、青年会より、日の丸の寄せ書きをもらい、同席の皆さんに挨拶を、二十年間育ててくれた、懐かしの我家を後に仕途につく。少年団の音楽隊が奏でる「勝つてくるぞと勇ましく」に両手を高く挙げて答える。

洗馬川の清き流れにかかる坂下橋を渡り、氏神様に、武運長久祈願参拝に向かう、沿道で会う人々は「元気で頑張れよ」と勇気をつけてくれる。神前にぬかずき、国家安泰と武運長久の祈願、献上されたお神酒を拝飲し神社を後に役場に向かう。役場にて各部落より来た同年兵五名が合流、堀内千尋村長の訓示、代表者の答辞、内海喜間多助役の万歳三唱、参加者約二〇〇名の唱和が四方の山々にこだまする。役場より列を作って、上田電鉄傍陽駅に、車上の人となる。発車直前まで半分以上車窓から身をのりだして送別の歓呼の声に答える。

上田から松本まで一般の人と乗る。宿舎に落ち着くも、朝の元気はどこへやら。夜の食事も喉を通らないような情けなさ、就寝時間でも寝つかれないまま朝になる。宿舎のおかみさんが「入隊すればお腹がすくから、どんどんお代わりして食べなさい」といわれたが、時間前に衛門に入る。兵舎に案内され入ると「君達は六十二連隊の南方要員だ」と夏服を支給された。その日から教育訓練が始まった……。

六月二十六日午前三時に非常召集で起こされ軍装を整え、兵舎を後に、国防婦人会の隠密な見送りを受けて臨時列車で宇品港に向かう。列車は薄暗い三等車で全部錠戸を閉めたまま、朝宇品港につくも船室の割り当てなどし夕刻、三七〇〇トンくらいの貨物船に乗船、船底には軍用馬がおった。

夕陽が西の空に沈むころ、ぼーぼーとドラの音を合図に船は静かに岸壁を離れる。ドラの音の寂しさ、五、六時間過ぎの深夜「敵潜水艦あらわる救命具を着せよ」の命令、船はUターンして下関港に引き返す。

下関港にて船団を組み直し駆逐艦二隻に護衛してもらい、台湾にむけ再び南下、七月二十四日、仏領印度支那サイゴン港に上陸無蓋車にて北部ベトナムに向かう。

私より半年程先に入隊した同級生、堀内春雄君（大日向）にハノイの師団司令部の通信隊で出会った時の嬉しさ「こんなに遠い異国で会えるなんて涙のほどの感激であった」

昭和二十年三月九日早朝、私達無線分隊は第二中隊、工兵一ヶ小隊、機関銃一ヶ小隊に配属され、ラオカイ五角陣地の斬り込み隊と行動を共にせよの命令を受けた。連絡はサイゴン（軍指令部）ビンエン（六十二連隊）間通信で、軍指令部から「……」

「……」「……」の放送に変われば「直ちに攻撃せよ」の暗号になつていたが、信号は「……」「……」「……」の連続発信、受信したのが九日二十二時、いよいよ戦争か、一瞬複雑な気持ちだが脳裏をかすめたが、後方より早くダダダダッ、重機関銃の弾丸が頭上を走る。時折照明弾が打ち上げられ、地上は昼間のようにラオカイ五角陣地の攻撃があつても無線分隊は一発も弾丸を發さず無線器材にかじりつきであった。一部始終六十二

連隊に報告するも、ときたま「タマクルシバラクマテマテ」と地上に伏せたままの連絡、生まれて始めての弾丸の下、生きた心地は皆無、前戦部隊は五角陣地に突入するや仏印軍の降伏は東の空に太陽が昇る頃であった。今でもときどき戦争の夢を見る事もあります。恐かったからでしょう。

八月十五日という日は生涯忘れられない日であり、特に今年は、太平洋戦争終結から五十年になる。

昭和二十年八月十五日今のベトナムのヴィエン（ハノイの北東にあたる）で、朝十時の連絡で「十一時四十分迄に全部隊は連隊本部前に集合せよ」焼けつくような日光の下でまつこと二十分、正午に天皇陛下の終戦の詔告を聞くも電波の状態が悪かったのか、混信雑音等で内容を知ることが出来ずに中隊へ復



昔のそばひき 石臼

帰し、しばらくたってから班内がざわめき終戦である事を知った。そして中国軍の武装解除で捕虜となり、昭和二十一年四月二十二日浦賀に上陸復員しました。

今年の八月十五日は終戦五〇周年の節目にあたるので東京六二会（旧六二連隊）は日本全国に居られる会員六九三名の戦友の皆さん、ご遺族の方々にお誘いをかけ、十一時靖国神社参集殿前に集合と呼びかけた処、東京近県の方三十六名の参集があり、十二時より昇殿し、山下会長の礼拝に合わせて全員が我が部隊の九百七十三柱の英霊（太平洋戦争のフィリピン、ルソン島上陸作戦やベトナムなどにおける犠牲者は二三八名）のご冥福を祈った。

又十月十八日は靖国神社例大祭当日勅使拝礼式典に東京六二会会長の代行として私が午前九時三十分に参加殿に着席、全国より約八百名のご遺族及び旧部隊会員がお待ち申し上げると勅使御幣物ヲ奉シテ参向本殿にお入りになり、御祭文を奏し各行事を終われ、下向された後、特別参列者、崇敬者総代の拝礼が終わり、参列諸員本殿に進み、拝礼して退出しました。私は鎮魂と世界の平和を祈念してまいりました。

名簿の訂正 (敬称省略させていただきます)

新入会員です。よろしくお願いします。

勝 田 昭 子	〒341	三郷市高州4-115
川 上 秀 盛	〒171	豊島区長崎6-29-12
金 山 き み	〒140	品川区南大井6-10-5
小 林 芳 高	〒363	桶川市下日出谷18-3
小 林 みち子	〒206	多摩市一ノ宮724-1
住 吉 き わ	〒275	習志野市谷津2-22-30-204
関 義 一	〒336	浦和市領家1-15-15
広 川 雅 子	〒275	習志野市津田沼4-7-8-304
藤 沢 秀	〒198	青梅市東青梅2-20-33
細 田 かね子	〒240	横浜市保土ヶ谷区宮田町3-319-2
正 木 とみ子	〒165	中野区大和田3-4-3
武 捨 久 男	〒176	練馬区中村南2-15-9
柳 沢 秀 男	〒328	与野市中里390-18

退会されました。

大 島 けさみ	15 P
佐 藤 ちとせ	30 P
中 村 幸 子	47 P
古 市 繁 治	55 P

通知返却されました。ご存知の方はお知らせください。

加 藤 ちず子	15 P
清 水 袈裟寿	32 P

次の二人の方、御逝去されました。御冥福をお祈りいたします。

樋 口 格(旧姓 坂口)	54 P	平成 7 年 5 月 21 日	89 才
飯 嶋 俊 一	7 P	平成 7 年 9 月 25 日	66 才



真田の里新そばまつりにご招待されて

祝 東京真田町の会 一会報8号一

東京で躍進を続ける 真田不動産グループ

1F ●特選輸入洋品 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411
●総合不動産 株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
2F 貸事務所（歯科医院）
3F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション）

株式会社 真田不動産

代表取締役／堀内 政

（真田中学校上・元あさひ堂出身）

東京都足立区綾瀬6-30-8 〒120（WAKO真田ビル1階）

自宅：足立区青井4-4-10 ☎03-3840-3211



WAKO真田本社ビル 1988年完成



IMPERIAL青井 1993年完成（当社施工物件）



IMPERIAL青井 1995年完成（当社施工物件）

SANYO DENKI

これからも皆様と共に歩んでいきます。

当社は上田市周辺に5工場を有し、従業員も2000名となりました。
真田町からも約130名の方々にご協力を戴いております。
これからも山洋電気は常に皆様と共に発展を続けたいと願っております。

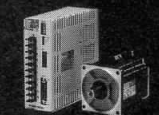
主要製品



●サンエースファン



●ステッピングモータ



●DC、ACサーボモータ
各種制御装置



●無停電電源装置
電話局用電源装置

山洋電気株式会社

相談役 横沢 新二郎（荒井出身）

上田事業所 長野県上田市緑が丘1-1-7 ☎(0268) 22 8585（大代表）
緑が丘工場、塩田工場、築地工場、青木工場、富士山工場

本社 東京都豊島区北大塚1-15-1 ☎(03) 3917 5151（大代表）

祝 東京真田町の会 一会報8号一

東京真田町の会 副会長 荒木孝一 (真田出身) 〒188 東京都田無市向台町一七七一三〇 TEL (〇四二四) 六三二七二〇九	東京真田町の会 理事 飯島慶三郎 (下原出身) 〒180 武蔵野市吉祥寺東町二一三三三十八 TEL (〇四二二) 二一八五九四	土地・建物・測量・登記 飯嶋測量事務所 土地調査士 飯嶋義道 (中組出身) 横浜市鶴見区梶山二一三八一十一 TEL (〇四五) 五八一〇三二四 TEL (〇四五) 五七一五〇五五	国際浮出印刷株式会社 代表取締役 飯嶋徳磨 (中組出身) 川口市芝四八七九 TEL (〇四八二) 六五一三三七四	東京真田町の会 理事 石垣節子 (曲尾出身) 東京都北区十条仲原三一二十一七七 TEL (〇三三) 三九〇〇一八六三三
東京真田町の会 理事 大久保治夫 (大日向出身) 〒192-03 東京都八王子市松が谷二五一一一〇三 TEL (〇四二六) 一七七七一三	東京真田町の会 理事 一級建築士 荻原啓治 (四日市出身) 〒168 東京都杉並区和泉四一四二一三三〇一 TEL (〇三三) 三三二一五九三〇	東京真田町の会 理事 倉島保男 (角間出身) 〒168 東京都杉並区和泉三一六〇一二六 TEL (〇三三) 三三二一八一五二二	貿易物流研究所 所長 小林孝雄 (曲尾出身) 〒234 横浜市港南区日野四丁目四五五 TEL (〇四五) 八四三三八〇四一	勝田電設工業株式会社 代表取締役 塩沢和政 (大日向出身) 東京都江戸川区西小松川町三七番二号 TEL (〇三三) 三六五二一八六七六代
東京真田町の会 副会長 清水清晴 (中横道出身) 東京都狛江市東野川三十二二二 TEL (〇三三) 三四八九一〇七六三	峰岡町一丁目町内会 民生委員・児童委員 会計 田中恒夫 (横尾出身) 自宅〒240 横浜市保土ヶ谷区峰岡町一九三二二 電話 (〇四五) (三三三) 三九八二番	東京真田町の会 理事 塚田恒雄 (横尾出身) 千葉県柏市西山一十一一十八 TEL (〇四七二) 七五〇八三三	メナード化粧品 等々力駅前代行店 東京真田町の会 理事 中島正江 (戸沢出身) 〒158 東京都世田谷区中町四一三五一十七E TEL (店) 〇三三三七〇五九六八五 (家) 〇三三三七〇二一三八五	ロシア料理渋谷ロゴスキー 調理部長 長屋京子 (菅平出身) 本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F 渋谷区桜丘一六一三三和田田ビル2F TEL (〇三三) 三四六三一二九一一

祝 東京真田町の会 一会報8号一

株東京マネジメント・コンサルタンツ

〒231 横浜市中区日本大通18 KRCビル
(大根橋通り)
TEL 045(662)1201 FAX 045(662)1414

日本では高齢化社会の到来が、世界に前例のない速さで進行しています。このため国民の保健衛生に関する施策と病院・診療所の経営が激しい変革の並にさらされています。こうした状況の中で、当社はお医者さんが不安なく診療に専念できるよう、病医院の経営面をサポートするため、首都圏全域にわたりコンサルティング活動を行っています。

(所属グループ)

社団法人日本医業経営コンサルタント協会
神奈川県支部支部長

税理士と公認会計士の組織TKC神奈川会

パートナー制による税理士等の事務所代表パートナー

関 谷 義 久 (戸沢出身)

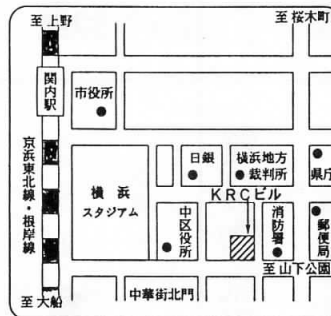
自宅 〒211 川崎市中原区
小杉町1-403-4 パロス 103
TEL 044(711)0055

株TKC東京パートナー会計事務所

〒211 川崎市中原区小杉町1-403
武蔵小杉STMビル(武蔵小杉駅正面)
TEL 044(733)1101 FAX 044(733)1102

世界各国の政治経済動向が私達の生活に直接影響を及ぼすまでに経済はグローバル化しています。景気の好・不況の繰り返しの中で、不況時に真先にその直撃を受けるのが中小企業です。当事務所はその中小企業の基盤強化と経営発展に貢献することを信条として活動しています。

横浜事務所



川崎事務所



八洲グループの車は今日も 信濃路を走っています

八洲輸送株式会社

代表取締役 横 澤 正 晃
(大畑出身)

埼玉県和光市下新倉4610-1
TEL 048 (468) 2121(代)
FAX 048 (466) 9919

(グループ会社)

(株) ヤ シ マ
(株) トウキョウ・ヤシマ
(株) オオミヤ・ヤシマ
(株) ワイエムエンタープライズ
旭 運 輸 (株)

真 和 商 事 (株)
(株) ミ ツ ワ
富 士 興 業 (株)
(株) ジュエイシエル
(株) タマ・ミルキーウェイ

(株) トーヨー運輸
(株) イケシヨク
(株) コーエイアソシエーツ
協同組合八洲物流グループ

祝 東京真田町の会 一会報8号一

(株)アップルサイエンス (コンピュータ関連) 代表取締役 社長 山岸 栄 本社 真田町 傍陽 五〇八五 営業所 埼玉県入間郡毛呂山町川角二〇九六 電話 〇四九二一九四一六三四八	埼玉工業大学 工学部電子工学科教授 東京真田町の会 理事 深町 共榮 〒366 深谷市上柴町西五〇七七八二 TEL(〇四八五)七二一七二五〇	東京真田町の会理事 司法書士 堀内 寿美 (上横道出身) 〒151 東京都渋谷区代々木二二〇一九 東洋ビル四〇二号 TEL(〇三三)三三七九一九一八二	株式会社東部財務情報センター 堀内税務会計事務所 堀内 茂雄 (中横道出身) 〒130 東京都墨田区業平四一九一三 TEL 三六二五二二二九一 FAX 三六二二一〇一六四	火災・傷害・自動車保険代理店 堀内 寅次 (中横道出身) 〒330 大宮市東新井九三九一六四 TEL 〇四八一六八五二二八二 FAX 〇四八一六八七一九二二二
アートメディア木精会主宰 洋画家 森本 幹生 (入軽井沢出身) 川崎市中原区小杉陣屋町一六八 TEL(〇四四)七三三三〇二六七	新お茶の水法律事務所 弁護士 山口 元彦 (横沢出身) 〒101 千代田区神田淡路町一〇九一 ニューお茶の水ビル七〇二号 TEL(〇三三)三二五五七九六一 FAX(〇三三)三二五五七九六〇	長野県人会 (御殿場市・裾野市・小山町) 顧問 柳 澤 喜三郎 (萩出身) 〒412 静岡県御殿場市川島田七四八二 電話 〇五五〇一八三三〇〇八二	中央建設国民健康保険組合理事 社会保険 事務士 三井 周 (大庭出身) 事務所 東京都江戸川区東葛西七六一四 TEL(〇三三)三六八九一三一九一 FAX(〇三三)三六八九一三一九九 自宅 東京都江戸川区篠崎町三一九九 TEL(〇三三)三六七七一三六二六	東京真田町の会 会計理事 三井 芳郎 (大庭出身) 〒156 世田谷区船橋一四八一三一 TEL(〇三三)三四八二一九三三三

育ててください
ふるさと結ぶホットラインに
*ふるさと宅急便
*特産物の開発・販売

長野県小県郡真田町大字長七二七八番地の一
財団法人 真田町振興公社

理事長 若林 康朗

TEL(〇二六八)七二二三〇〇
内線二六六一

真田温泉健康ランド ふれあいさなだ館

〒386-22 長野県小県郡真田町大字長7369-1 TEL.0268(72)2500
有線 2230



近況報告

岩井恭子さん（旧姓 荻原・中原
出身・桶川市在住）

今年も又総会の案内状を嬉しく拝見させていただきました。一年振りにふるさと真田町出身の皆々とお会い出来るのを楽しみにしております。そしてすばらしき真田町に生れ育った事を感謝しますとともにこの上なく幸せに思います。今後ともどうぞよろしく願います。

半田幸一さん（田中出身・足立区在住）

幹事の皆様御苦勞様です。いまだ続く不況の最中何かと頑張っております。真田町の会で元気になりたいものです。

細田かね子さん（旧姓 若林・赤井出身・横浜市在住）

しばらく家を留守にしておりますのでご連絡遅くなりまして申し訳ございません。皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。

佐藤ムネ子（旧姓 矢島・長出身・文京区在住）

いつもお世話になっております。朝はラジオ体操、夜は盆おどりなどしております。皆様にお会い出来る事楽しみに。

和田未子さん（旧姓 清水・荒井出身・町田市在住）

昨年は駅伝の前日で欠席し、今回は出来るだけ出席と思い、都合つけ、九月二十九日から十月三日まで第八回スポレク大会で奈良に、東京の六十才代の代表で出場することになっているのに左足が痛み、走り込みが出来ず困っています。なんとか頑張ります。

石井栄津子さん（旧姓 樋口・横尾出身・足立区在住）

お世話になっております。真田町根性を出して未だ現役で勤めております。

九月九日孫の出生（産）予定日となっておりますので次回出席させて頂きます。真田町の会発展を祈ります。

*「安産とご健康をお祈りします」

池田邦子さん（旧姓 鈴木・横尾出身・板橋区在住）

色々ご配慮戴きありがとうございます。誠に残念でございますが、丁度旅行を計画しております故、今年は欠席させて頂きます。よろしく願い致します。

*「来年は九月二十三日です。計画にお入れ下さい」

山崎浦子さん（旧姓 清水・新井出身・目黒区在住）

孫の出産の為欠席させて頂きます。

第一回の時出席致しましたが、その後何かと重なって残念です。又何時の日かぜひ出席致したいものです。どうぞ益々の盛会でありますよう祈ります。

*「お孫さんの安産とすこやかにお育ち下さるよう祈念します」

柳沢多喜雄さん（萩出身・浦和市在住）

大変残念ですが他の会合と重なりどうしても抜けられませんでした。今回は欠席させて頂きます。ご盛会を心より祈念致します。どうか皆様によりしくお伝え下さい。

*「一年に一度です。予定に入れています」

南雲圭子さん（旧姓 高寺・竹室出身・大田区在住）

七月末より竹室へ避暑に来ておりまして、九月末迄居ります。毎年の事で九月の真田町の会に出席出来ず残念です。皆様によりしく。

*「よいお身分です。帰京してからは頑張ってください」ふるさと訪問にもお顔を出してね。

久野けさ志さん（旧姓 堀内・中横道出身・葛飾区在住）

何時もお世話様になります。今年こそは出席出来るかと楽しみにして居りましたが当日出勤と重なり残念です。御出席の皆様にとどうぞよろしく願います。

*「御身大切に活躍下さい」

野口 幸さん（旧姓 横沢・本原出身・名古屋市中区在住）

毎年の事、お通知有り難うございます。残念な欠席させて頂きます。又の機会にお目にかかれそうです。皆様によりしくお伝え下さいませ。

*「又あう日まで待ちましょう」

永戸富江さん（旧姓 中村・竹室出身・府中市在住）

国勢調査説明会のため欠席します。酷暑の折皆さま方お一層のご自愛を府中市の一角よりお祈りいたします。

*「ワンルーム、オートロックマンション等増え大変、それでもあたたかい声も多くあつて人生経験が出来ました。私も調査（八十六軒）しました」

松本 等さん（大畑出身）

報告がおくれてまして申し訳ございません。つきましては左記住所にUターンいたしました。

H7・4・15日に転居いたしましたのでよろしく。真田町長七二五七二六

*「真田町の発展に寄与して下さい。お願いします」

*印は係より一言

寄付御礼

平成七年度総会に際して、多くのご寄付を頂戴しまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

関 義一様	二万円
上原 辰夫様	一万円
塩崎 武男様	一万円
田中 静江様	一万円
井出 正一様	会費一万円
小山 峯男様	会費一万円
横沢 智様	一万円

広告御礼

日本ダボス第八号の発行に際しまして、今年も広告御出稿下さいまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

年会費納入のお願い

平成七年度の年会費千円を未納の方は郵便振替用紙にてお振り込み願います。

又振替番号は次のとおりです。
0011011255577

東京真田町の会

総会の予告

平成八年の総会及び懇親会は、九月二十三日（例）にアルカディア市ヶ谷で行います。八月中にご案内しますが、今からご都合をつけてください。大勢のご出席をお待ちしています。

平成6年度 決算報告書

自 平成6年4月1日

至 平成7年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
前期繰越金	1,225,837	1,225,837	総会懇親費	2,000,000	1,363,765
年会費	600,000	440,000	会報発行費	500,000	535,600
総会懇親費	1,500,000	1,529,000	会議費	50,000	77,842
真田町補助金	500,000	500,000	事業費	300,000	0
広告費	500,000	400,000	事務通信費	450,000	207,887
寄付金等	100,000	80,000	印刷費	300,000	108,446
雑収入(利息)	74,163	3,305	雑費(手数料)	50,000	8,562
			渉外費		153,800
			交通費		700
			予備費	150,000	
			次期繰越金	700,000	1,721,540
合 計	4,500,000	4,178,142	合 計	4,500,000	4,178,142

上記の通り収支決算報告いたします。

平成7年3月31日

会 計 三井 芳郎 ㊞

会 計 田中 恒夫 ㊞

上記の決算報告書は関係資料と照合の結果相違ないことを認めます。

会計監査 関谷 義久 ㊞

会計監査 倉島 保男 ㊞

平成7年度事業計画

- (1) 会報「日本ダボス」第8号の発行
- (2) ふるさと特産品の宅配への協力
- (3) 真田町との交流促進
- (4) 各種事業の実施
- (5) その他

平成7年度予算

自 平成7年4月1日

至 平成8年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越金	1,721,540	総 会 費	2,000,000
年会費	600,000	会報発行費	600,000
総会懇親会費	1,300,000	会 議 費	250,000
真田町補助金	500,000	事 業 費	200,000
広告費	300,000	事務通信費	450,000
寄付金	70,000	印 刷 費	300,000
雑収入(利子)	8,460	渉 外 費	250,000
		交 通 費	150,000
		雑 費	50,000
		予 備 費	100,000
		次期繰越金	150,000
収 入 合 計	4,500,000	支 出 合 計	4,500,000

「東京真田町の会」役員名

職 名	氏 名			
会 長	小林 孝雄			
副 会 長	清水 清晴	荒木 孝一	塩沢 和政	
理 事	会計理事	三井 芳郎	田中 恒夫	
	理 事	石垣 節子	飯島慶三郎	飯嶋 義道
		大久保治夫	小林 正子	塚田 恒雄
		長屋 京子	中島 正江	深町 共栄
		山口 元彦		
監 事	関谷 義久	倉島 保男		
青壮年部				
部 長	山口 元彦			
幹 事	荻原 啓治	小林 正子	堀内 寿美	
	横沢 由明	塚田 健次		

編集後記

会報「日本ダボス」第八号を発行するに当たり素晴らしい原稿や貴重な写真のご協力を賜り紙面を飾る事が出来ました。厚く御礼申し上げます。

会報も第八号となりましたが、何分にも素人の編集ですので、不備の点が多々ありますがご容赦下さい。又お気付きの点がありましたら是非お聞かせ下さい。又すばらしい原稿を割愛したところがありますが、お許し下さい。

閑話休題

総会のハガキのお返事を下さった方、五十一パーセント。お返事のない方、四十九パーセントでした。皆さんお返事下さい。

●写真提供

真田町役場
横 沢 清 人
塩 崎 武 男
清 水 清 晴
三 井 芳 郎

真田郷

作詞 山宮久義
作曲 緑川敦夫

一 此処は信濃路 真田郷

安らぎ満つる 故郷よ

緑芽生えて 土薫る

自然の恵み 豊かなり

若い力の 育つ町

二 洗馬のせゝらぎ 昔より

名馬の誉れ 世に遺る

深きゆかりの 観世音

象山慕う 地蔵道

月で名を成す 鏡台山

三 松尾城跡に 角間峡

真田氏護持 長谷寺

四季を彩る 山脈は

四阿根子岳 大松山

四方に広がる 菅平

四 つゝじ色なす 居館跡

六連銭の 旗印

真田家偲ぶ 我が里は

三郷円く 和を結び

永遠に伸びゆく 真田郷

永遠に伸びゆく 真田郷

真田郷



日本ダボス (平成7年12月25日発行)

発行 東京真田町の会 会長 小林孝雄
編集委員 清水清晴 三井芳郎 飯嶋義道
長屋京子 堀内寿美 小林正子
印刷 (有)中沢活版所